



ごあいさつ

理事長 杉本 宗之

平素より、私たち「四国ろうきん」をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

2019年6月25日の第19回通常総会において、理事長に仰せつかりました杉本宗之でございます。前任の小川俊理事長の後任として全力で取り組む所存でございますので、よろしくお願いいたします。

「ろうきん」は、かつて「金融排除」された労働者や生活者が「相互扶助」の精神で資金を出し合って創った「協同組織の福祉金融機関」であります。「四国ろうきん」誕生以来18年、激変する経営環境の中で着実に成果をあげてくることができましたのも、会員各位をはじめ関係団体のご指導ご支援によるものであり、改めて感謝を申し上げます。

2018年度は、「第7期中期経営計画」がスタートする極めて重要な年度と位置付け、「大改革の完遂」と「高付加価値・お役立ち・提案営業」のダブルテーマを掲げながら改革施策の実行に取り組みました。

重点課題として、①経営戦略、②財務戦略、③営業戦略、④IT戦略、⑤コンプライアンス・リスク管理戦略、⑥人事戦略の6項目を掲げて「四国ろうきん」グループ改革や、ブロック営業体制の完結に向けた取り組み、アールワン・システムを活用した業務事務改革などを積極的に行って参りました。

その結果、収支面では、経常利益8億78百万円の計画に対し10億24百万円となり、計画を1億46百万円上回り、当期純利益5億97百万円の計画に対し7億46百万円となり、計画を1億49百万円上回りました。なお、自己資本比率は、10.64%となりました。

「第7期中期経営計画」の2年目となる2019年度は、「四国ろうきん」にとってホップ・ステップ・ジャンプの「ステップ」という極めて重要な年度となります。私たちは、グループ全体で経営資源（ヒト、モノ、カネ）を最大限有効活用し、凄まじいスピードで進むデジタル化や少子高齢化人口減少といった大きな社会変革に正面から向き合う中で経営理念の実現と金融包摂を「高付加価値・お役立ち・提案営業」により実現し、ろうきんブランド力を向上させて参ります。

このディスクロージャー誌「2019四国ろうきんの現況」は、ろうきんの機能や役割、四国ろうきんの2018年度の業況等を取りまとめたものです。

本誌によって、私どもに対するご理解を一層深めて頂ければ幸いに存じます。

2019年7月